

聖書

聖書は、創造者なる神の「知恵、知識、真理の宝庫」

「直ぐな心で（ヨシエル）」、聖書に向かう者は多くの宝を見つけ、何よりも神に出会う

詩篇119：7、エペソ人6：5「真心から」、マタイ13：44-46

しかし、深く知ること「知識」をどれほど積んでも、信じ委ねる「信仰」には至らない

→①神のデザイン、秩序、原則の一貫性

→②ダイナミックな多角的、立体構造：神の視点

教会「キリストのからだ」—その1—

☆西暦一世紀、キリストの弟子たち、使徒たちが、イエス・キリストの受難後のペンテコステの日以降、聖霊の導きによって、定期的を守るようになった少人数の信徒たちの集まり

「家の教会」を、聖書に基づいて学ぶ

教会、—キリストのからだ—

* 聖書は、信徒が、神をほかの人々とともに礼拝し、信仰の成長のために御言葉を教えられ、定期的に集まる必要があると語っている

* 信徒の定期的な交わり、集いが「教会」

‘ἐκκλησία’（エクレシア）は「集い」、「集まり」

‘κοινωνία’（コイノニア）は「交わり」、「分かち合い」

使徒の働き2：42-47

* 初代教会では、個々の信徒は「使徒たちの教えを堅く守り、交わりをし、パンを裂き、祈り」に献身した

* 信徒は「毎日、心を一つにして宮に集まり、家でパンを裂き、喜びと真心をもって食事とともにし、神を賛美し、すべての民に好意を持たれた」

* 定期的集まることは、ただ「よい提案」というのではなく、信徒に対する神の御旨

ヘブル人10：25

「ある人々のように、いっしょに集まることをやめたりしないで、かえって励まし合い、かの日が近づいているのを見て、ますますそうしようではありませんか」

* 教会とは、

信徒たちが互いに愛しあい、互いに励ましあい、互いに愛と善行を促しあい、互いに仕えあい、互いに訓戒しあい、互いに尊敬しあい、互いに親切にしあい、赦しあう交わり

ヨハネ第一4：12、ヘブル人3：13、10：24、ガラテヤ人5：13、ローマ人15：14、12：10、エペソ人4：32

コリント人第一12：14-27

* イエス・キリストを「救い主」として受け入れ、信頼するとき、信仰告白した個々人は、「キリストのからだ」の一員となる

* 「キリストのからだ」がふさわしく機能するには、その「からだの一部」のすべてが存在し、ともに働く必要がある

* 「からだの一部」は神が一人ひとりに与えてくださった霊の賜物を用いて、ほかの人のための何らかの働きに従事する

* 「キリストのからだ」を構成する人たちはだれでもみな、ほかの信徒たちとともに神を礼拝し、神の言葉を受け、霊の交わりをする必要を感じ、したいと願うようになる

聖書

ペテロ第一2：5-6

- ★キリストは教会の「**堅く据えられた礎の、尊いかしら石**」
イザヤ書28：16

理想的な共同体？

- ★初期の「キリスト者の交わり」、
「キリストの教えと相互愛に献身する者たちの集まり」として知られていた
- ★信徒たちの役割は、この世に理想的な共同体を生み出すことではなく、
優先的にキリストの再臨の条件、一大宣教命令—を満たすこと以外にない
マルコ13：10、マタイ24：14ほか
- ★それには、「福音が全世界に知れ渡る」ように、御言葉の伝搬に携わる器、
「キリストのからだ」が訓練され、建てあげられなければならない

教会構成について聖書の教え

- ★今日存在する教会組織の四つの基本的な形
監督教会、長老教会、会衆教会、民間教会

教会構成：教会のかしら

- ★キリストは、教会の「**いっさいのものの上に立つかしら**」
エペソ人1：22、コロサイ人1：18、エペソ人5：23-27

教会構成：教会の役職

長老

- ★牧者（直訳では「羊飼い」）は、教会を構成する人々のかしら
初代教会では、複数の長老、—「司教」とか「監督」とも呼ばれた— がいたようである
- ★教会を指導し、御言葉を教え、指示を与え、神の民をいさめたり、
励ましたりする責任を担う
- ★長老のうちの一人在牧者、あるいは、御言葉の教師

執事

- ★そのほかの役職は、執事
病人、高齢者、未亡人の世話や、建物やそのほかの所有物の維持など、
教会の身辺の実用的な諸事を取り扱う

教会構成：役職者間の関係

- ★長老としての役割に従事していた使徒が執事を指名、任務を割り当てた
- ★執事はいつも長老の権威の下に置かれた
- ★御言葉を教える牧者と教会のほかの長老たち、ともに霊的な監督の責任を担った
牧者の地位に置かれた長老は、さらなる義務を担った
テモテ第一5：17

教会構成：教会間関係

- ★すべての教会が一つの「キリストのからだ」を構成
- ★パウロ、さまざまな教会が一致して互いに助け合うことと、その成長に関心を払った
- ★パウロはピリピの教会の人たちをほめた
ピリピ人4：15
- ★パウロは、包囲されたり、迫害下にあったエルサレムの教会を援助するための献金を促した
使徒の働き24：17、ローマ人15：26-27ほか
- ★教会間の親しい交流は、新約聖書を通してうかがえる

聖書

「キリストのからだ」の真理

☆教会について二つの真理

①生ける神の教会は、真理の柱であり、土台である

テモテ第一3:15

②キリストだけが教会のかしらである

☆①の真理に関して、聖書が完全な権威

*聖書は、信仰と信仰の実践のための唯一の全く誤りのない原則

テモテ第二3:16ほか

☆二つ目の真理②に関して、

*牧者であれ、祭司であれ、法王（教皇）であれ、人はだれも教会のかしらではない

*すべての人は死すべきもの、

死人が「生ける神の教会」のかしらになることはあり得ない

*キリストは教会の唯一、卓越した権威

教会のすべての指導権、賜物、秩序、規律、礼拝は、キリストの主権を通して指定される

真の「キリストのからだ」に献身

教会選び ステップ1.

☆献身する教会を決める前に、ある程度調べる必要がある

*教会の教理的な声明、目的の声明、宣教綱領等々

*多くの教会はウェブサイトで、

聖書、神、三位一体、イエス・キリスト、罪、救いなどに関する立場を表明している

教会選び ステップ2.

☆次に、確かな基盤に立っていると思われる教会を訪ねる

*教会が新来者に提供する印刷物、冊子の信仰声明に留意

☆教会探しの指針

1. 聖書が唯一の権威？
2. キリストが教会のかしら？
3. 使徒訓練？
4. 神を礼拝？
5. 重点を置いている働き？
6. 説教？
7. 信徒との交わり？
8. 聖霊のご臨在？
9. この世的な礼儀作法？
10. 会衆は真の礼拝者たち？

⇒「この地上に完全な教会はない」ことも銘記すべき

教会は、霊の戦いのさなかにある「^{つみびと}罪人たち」の集まり

教会選び ステップ3.

☆祈って、決定

*「主よ、私をあなたが望まれる教会に導いてください」と祈る

聖書

教会に通えない状況下の考察

- * 昨今、特に中東やアフリカで、キリスト者の礼拝を拘束したり、全く禁止したりしている国々や地域が増えている
キリスト教国でも拘束がエスカレートしているのが実情
- * 神に敵愾心を燃やす国や環境下にあるキリスト者の間では、引き続き信仰に成長し、成熟するために、大変な困難との戦いが続いている
- * あるいは、何らかの事情でほかのキリスト者との交わりができない場合、個々の信徒に、日々の勤勉な御言葉の学びが必要になる

- * パソコン、インターネットの普及で、今日は、世界中のほとんどの国で福音に触れ、御言葉を日々学ぶことは可能

- * 拘束された地域では、信徒の集まり、「地下」家庭グループが維持されている
- * 中国では「家の教会」の動きが迫害に直面して起こり、キリスト者の強くて力強い共同体が生み出された
- * 忠実な信徒たちは、毎週、集合場所を変え、口伝えだけの連絡で交わりを保ち、この世から敵対されてきた時期、信仰にあって法外に成長した

→ **4**キリストの約束の確かさ、預言の成就の確かさ
ご自身のお言葉に真実な神

- * キリスト者にとって何よりも大きな励ましは、主のご臨在の約束
どのような環境下に置かれても、
 - ①各信徒はキリストとの親密な関係を維持することができる
 - ②神は間違いなく、孤立した信徒を励まし、力づけてくださるローマ人8：38-39
- * 信徒は、各自のうちに住まわれる聖霊の賜物を与えられており、聖霊は各信徒が脅威的な状態にあるとき、個々の信徒をずっと支え、助けてくださる「助け主」
ヨハネ15：26、エペソ人1：13-14ほか

教会を渡り歩くこと

- * 聖書は、この問題を扱っていない
- * 聖書に登場する町や村に、信徒の群れが一グループ以上あったという示唆はない
- * ヘブル人10：25の奨励には、一つの教会に献身しなければ、できないことが記されている
教会を渡り歩く行為は、「互いを励ましあう」という「キリストのからだ」の目的を損ねる

- * 教会は、「キリストのからだ」の構成員が、御霊の賜物、—「**みな**の益となるために」— 与えられた— を用いあう交わりの場
コリント人第一12：7

- * 教会を渡り歩く行為のゴールは、聖書が、誤りのない神の言葉であることを教え、キリスト信仰の神髄のすべてを主張する教会を見つけること
- * 神が導こうとしておられる最善の「家の教会」を選ぶために、しばらくの間は教会を渡り歩き、吟味することが必要かもしれない

- * しかし、確固とした教会を見つけた後は、そこに留まり、献身しなければならない